

經濟論叢

第168卷 第4号

ケインズ経済学とアメリカ	根 井 雅 弘	1
労働所得税による人的資本投資の リスク・シェアリング効果	福 井 唯 嗣	22
資本家支配の根拠（2）	坂 本 雅 則	38
マイクロソフト社の成長と「航空宇宙企業都市」 シアトルの構造変化（1）	山 縣 宏 之	57
アメリカ自動車・石油精製企業の マスクー法への対応	野 口 義 直	74

学 会 記 事

平成13年10月

京 都 大 学 経 済 学 會

【学会記事】

曹鳳岐教授講演会

2001年2月27日(火)の午後3時より、京都大学本館3階会議室にて京都大学経済学会主催により北京大学曹鳳岐教授の「WTO加盟と中国金融業の国際化」と題する講演会が開催され、貴重な議論をすることができた。曹鳳岐教授は、北京大学光華管理学院の教授として国有企業改革や金融システム改革についての権威であり、同じく北京大学の金融証券研究センターではそのセンター長も務められている。したがって、中国全体のこの分野の動向を決める要の位置におられる研究者であり、ひとつひとつの発言は大変貴重なものであった。

教授の講演ではおおよそ次のような点が主張された。すなわち、WTO加盟は中国にとって金融業改革を緊急のものとしていること、その改革は加盟後少なくとも5年以内に終わらねばならないこと、新しく中国金融業が強化しなければならない問題としては金融業における「卸売り」分野(クレジットカードなど)の強化、中間業務率の引き上げ、電子取引の促進などがあること、外国銀行との激しい人材獲得競争を覚悟しなければならないこと、政府の貨幣政策が有効でありつづけるためには外国銀行法の制定によって外国銀行のコントロールが必要なこと、外国金融機関の進出には合資方式がより多くとられるよう誘導されるべきこと、外国銀行の進出の速度は余りに急であってはならないこと、商業銀行の業務規制は緩和されるべきこと、などであった。

講演は以上のように多岐にわたる論点を提供し、また大変興味深いテーマであったので、質疑もまた活発であった。質疑でされた論点は、例えば、①政府の貨幣政策に対する影響、②不良債権処理における債権の証券化の意義と問題点、③金融改革の優先順位、④国有金融機関に代わる民間金融機関の役割、などであったが、曹教授は政策提起の最前線におられる研究者らしく、それらのどの論点にも的確な回答を寄せられていた。

参加者の多くは留学生であったが、中国北京大学で曹教授に学んだことのある京都府の研修生が参加したり、広島から中国人研究者が参加したりでどなたもが有益なコメントをして下さった。東アジアの隣国における経済学的に極めて興味ある実験の最前線を本学で垣間見られたことは、本学が「日本の大学」から「東アジアの大学」として飛躍して行くという目標にとって非常に有益なことであった。

(大西 広)